

ケース・ブック

2017-2020

2018 年追加補遺版

2018 年 12 月 3 日発効

変更および追加の概要

2018 年 12 月 3 日、world sailing は以下に示すケース 132 の改訂版を公示した。この改訂は、同日発効となる。規則 18.1(a)と 42.3(c)に用いられている「風上に向かうビート」の解釈を述べている。この改訂は、2018 年に問題が沸き起こり、以前のケースでは危険な状態であったため、ケース・ブック 2018 補遺版の追加として公示されている。

注記：ケース・ブック 2019 補遺版は、2019 年の早いうちに公示されるであろう。そこには、World Sailing 年次総会で承認された新しいケースが盛り込まれるだろう。

ケース 132

規則 18.1 (a) マークルーム：規則 18 が適用される場合

規則 42.3 (c) 推進方法：例外

「風上に向かうビート」の解釈

【質問 1】

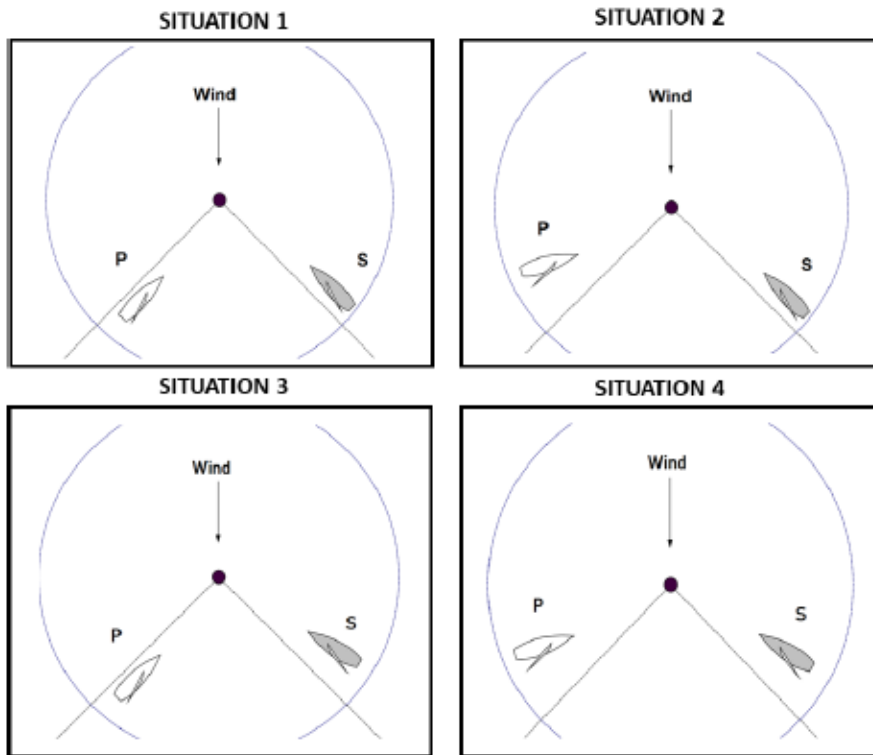
規則 18.1(a)には、規則 18 は風上に向かうビートで反対タックの艇間では適用されないと記載されている。規則 18.1(a)において、いつ「風上に向かうビート」なのか？

【回答 1】

規則 18.1(a)において、少なくとも 1 艇がゾーンにいる場合の複数の艇の状況が必要であるだけであり、反対タックの 2 艇では、次のいずれかの場合、「風上に向かうビート」であると考えられる。

- (1) 各艇のプロパー・コースがクロスホールドまたはそれ以上の場合
- (2) 1 艇または両艇がマークへのクロスホールドのレイラインを越えており、クロスホールド以下を帆走している場合

ポート側に見て通過するマークのゾーン内にいる、関係する反対タックの各艇の、以下 4 つの状況を考える。マークは風上マークか、フィニッシュ・ラインのポート側のフィニッシュ・マークか、風上のゲート・マークか、または回航マークでないリミット・マークとする。これらの状況において、示された艇は「風上に向かうビートで反対タック」であるため、これらの艇間には規則 18 は適用されない。



【質問 2】

規則 42.3(c)には、どのセールでもサーフィングまたはプレーニングが可能な場合 1 回の引込みは、風上に向かうビートを除いて許されると記載されている。規則 42.3(c)において、いつ艇が「風上に向かうビート」なのか？

【回答 2】

規則 42 はレースでの各艇を個別に扱う。規則 42.3(c)においては、他艇がない中で、その艇がコースを帆走し、できるだけ早くフィニッシュするであろうコースがクロスホールドまたはそれ以上の場合に限り、その艇は「風上に向かうビート」にある。